

# 石山商店街

(石山商店街振興組合)

滋賀県大津市

## ！取組のポイント

「地域と歩む“暮らしの広場”」を目指して、アクションプランに位置付けた様々な事業に精力的に挑戦。

## 取組の背景

### 店舗経営者の高齢化や後継者不足などが深刻化

石山商店街は、郊外型大規模商業施設の立地、各商店の魅力低下や商店街インフラ整備の遅れなどにより、近年、衰退傾向にあり、また、店舗経営者の高齢化と後継者不足、組合員数の減少なども課題となっていた。さらに、道路の慢性的な渋滞や、歩道が一部未整備であることから、買物客の安全をどう確保するかについても課題となっている。

一方で、JRおよび京阪電気鉄道の石山駅に近く、京都、大阪などへの通勤が便利なこと、人口が増加傾向にあり、来街者の増加や消費拡大のポテンシャルを有している。

石山商店街風景



## 取組の内容

### アクションプランを策定し、課題に対応

そこで、2008年に石山商店街アクションプランを策定し、具体的な取組として、道路問題への取組、空き店舗活用などの地域商店街活性化事業を展開している。地域商店街活性化事業では2010年度から2013年度にかけて、空き缶回収機の設置、街路灯の改修整備などを実施し、また、2012年10月1日から12月26日までの3か月間、社会実験として空き店舗を活用したコミュニティスペースの開設運営を行った。

この実験結果や課題を踏まえて、2014年1月に「石山らんらんサロン」を開設し、コミュニティ活動の拠点はもとより、地場製品の販売などをするアンテナショップ、来街者の休憩所など、商店街の活性化に大きく寄与する施設として運営している。

また、子どもにやさしい商店街として、食を通して子どもたちを見守る「みんなの食堂」を地域の各団体と開催。商店街内の各店舗での職業体験ができる「こどもミュージアム商店街」も、子どもや親御さんに店舗の魅力を十分に伝えられる事業展開になっており、これらの事業を通して新規の顧客が増加傾向となっている。

道路問題に関しては、新たな車の流れや人の流れが生まれることを視野に入れ、部会を設置して検討・協議を進め、暫定的に歩道が改修される見通しが立ったところである。

その他、札幌市の石山商店街とは、意見交換や商店街で行う各種イベントで両地域の特産品の相互出展や販売を行うなど、商店街では珍しい広域の連携、交流活動が注目を集めている。

石山らんらんサロン



## 取組の成果

### 商店街が“暮らしの広場”に

空き缶回収機の設置や街路灯の改修整備について、「良い取組である」、「統一感が出ていて良い」、「節電対策になり、雰囲気も良くなったと感じる」などの評価を得ている。

「石山らんらんサロン」は、地域の方が気軽に立ち寄る場であるとともに、地域の団体やサークルなどの活動の場としてのコミュニティスペース機能はもとより、地域情報、観光情報、個店の情報などの情報発信拠点として、また、地場産品の販売スペースや商店街店舗のアンテナショップとしても活用されており、商店街が目指す「商店街は地域と歩む“暮らしの広場”」の核施設としての役割を十分に発揮している。また、子どもを対象にした各事業を実施したことによって、石山商店街に地域の方々が目を向けてくれるようになってきた。

その他、札幌市の石山商店街との協定に基づき、双方の活性化につながる交流が現在も進められており、「石山とれ取れ祭」に並んだ札幌の石山商店街加盟店舗の商品がすぐに売り切れるなど、効果が現れている。

## 実施体制

「商店街は“暮らしの広場”」の核施設としての機能をより効果的に発揮するために、「石山らんらんサロン」には職員が常駐している。商店街の魅力づくりの議論を重ね、地域で子どもたちの成長を支える方向性を模索してきた中で、商店街内で塾教室を運営している企業と連携して、サロン内で小学生を対象とした学習指導を行うとともに、商店街での店員体験などの体験学習を通じて生きる力を培うことに重点を置いた「石山・寺子屋塾」を開催している。商店街内に設置した道路問題の部会では、大津市・大津商工会議所・地元自治連合会と連携を図り、検討を進めている。

石山・寺子屋塾



## 基本データ

所在地	滋賀県大津市粟津町
人口	約34万人(大津市)
電話/FAX	077-537-2140/077-572-5063
関連URL	<a href="http://www.kiyaina.com">http://www.kiyaina.com</a>
会員数	140名
店舗数	212店舗(買回り品小売店8、最寄品小売店45、飲食店64、サービス店25、その他70)
商店街の類型	近隣型商店街
主な客層	主婦、高齢者、会社員

## キーパーソンからのコメント

石山商店街振興組合  
左：専務理事 大岩 信順  
右：理事長 黒崎 弘之



## 行動指針と組織改革

当商店街は城下町でもなければ、中心市街地にも該当していませんでした。自分たちの街を地域の方々とまち歩きをし、足元から見つめ直す作業から始めました。かつては、大企業の創業地のまちであり、企業城下町の意味合いが強かったですが、現在はあの華やかな時代は通り過ぎていきます。商店街として事業をしていく中、なかなか全ての事業を関連づけて行えないジレンマがありました。行動指針が無く、単なる事業の自己満足で、2016年度は何をしようかとそればかり考えていました。そこで、短期、中期、長期の行動指針であるアクションプランを作る運びになりました。単なる商店街のイベント事業だけではなく、地域のまちづくりの中心としても役割を担うものであり、自治会、大学、NPOなど各種団体と連携した事業展開を図ることができています。また、組織改革の中、賛助会員の拡大に力点を置いたことが、事業費の割合を増やせた要因となっています。

## 商店街は“暮らしの広場”

アクションプランの目標は“暮らしの広場”です。2010年から認定事業も並行して行う中、会員同士の連携が生まれています。各飲食店のつながりのなかで、飲食部会が発足し、名物の醸成や各種事業の企画、不動産部会では空き店舗への対応など、「暮らしの広場」への一翼を担ってきています。地域の方々が一緒に参画できる場を通して、各店舗の魅力を発信しながら、商店街に目を向けてもらえるように、「暮らしの広場」へと進んでいく考えであります。

## 商店街概要

当商店街は、瀬田川沿いの旧東海道筋に位置し、古代から近世に至る歴史散策が楽しめる地域である。1989年には商店街振興組合となり、共同して経済事業を行うとともに環境改善の整備改善に取り組んでいる。大企業の立地により、1965～1975年頃は「企業城下町」の商店街として活況を呈したものの、消費者ニーズの変化や郊外型大規模小売店の出店などにより厳しい環境下におかれていた。2008年にアクションプランを作成し、2010年には地域商店街活性化法の認定を受けるなど、「地域と歩む“暮らしの広場”」を目指して商店街活性化のための様々な取組を進めている。